

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2012

課題番号：21320149

研究課題名（和文） 飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究－出土品から見た川原寺の特質－

研究課題名（英文） Comprehensive research on Historic Ruins of the Hill behind Kawaharadera Temple in Asuka area: the Distinction of Kawaharadera Temple Considered from the Excavated Artifacts

研究代表者

米田 文孝（YONEDA FUMITAKA）

関西大学・文学部・教授

研究者番号：00298837

研究成果の概要（和文）：

1974 年度に川原寺裏山遺跡で発掘された一括遺物の正確な内容把握（種類・数量など）と主要遺物の実測調査を中心に調査研究を進め、2010 年度には埋納坑の正確な形態把握を目的とした第二次発掘調査を実施しました。調査研究を通じて、塑像の製作技法や金属器の用途などに関して、従来にない新たな研究視点に発展する成果を獲得しました。これらの成果は 2012 年度に国際シンポジウム（資料集）で速報し、2013 年度には研究成果報告書を刊行する予定です。

研究成果の概要（英文）：

This research consists of two parts. First, we researched on the assemblage excavated from Historic ruins of the Hill behind Kawaharadera Temple in 1974 in the following ways: 1) exact understanding of their type and quantity, 2) measuring of main artifacts among them. Second, we conducted the second archaeological excavation in 2010 in order to comprehend the shape of the pit which the abovementioned assemblage had been found. As a result, we acquired expansible vision to the new research point of view on technique of making clay statuary and usage of metal implements including utensils for worship. We reported these achievements briefly by the international symposium and its proceedings in 2012. The final research report will be published in 2013.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|---------|------------|-----------|------------|
| 2009 年度 | 2,900,000 | 870,000 | 3,770,000 |
| 2010 年度 | 3,900,000 | 1,170,000 | 5,070,000 |
| 2011 年度 | 3,200,000 | 960,000 | 4,160,000 |
| 2012 年度 | 1,600,000 | 480,000 | 2,080,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 11,600,000 | 3,480,000 | 15,080,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：川原寺裏山遺跡・川原（弘福）寺・三尊塙仏・塑像・水波紋塙・

X線CTスキャナ・非接触光学式デジタイザ・3Dプリンタ

1. 研究開始当初の背景

(1) 奈良時代に弘福寺という法号で記録された飛鳥・川原寺は、同じ飛鳥地域にある飛鳥寺や大官大寺などと異なり、『日本書紀』にもその建立の事情や大伽藍の罹災状況などが記録されることがなく、その結果として創建年代をはじめ異説が多いという状況を生み出しています。

(2) 川原寺に対する本格的な発掘調査は 1957～59 年の間、奈良国立文化財研究所により三次に及び実施されました。発掘調査では一塔二金堂の川原寺式伽藍配置と呼称される新しい形式の伽藍配置が検出され、現在は礎石や基壇などが復元整備・公開されています。

(2) 1974 年、関西大学文学部考古学研究室は、川原寺の裏山にあたる板葺神社の境内地の崖面を発掘調査しました。従来から、この地点は瓦や仏像様の破片が出土する場所として注目されていました。発掘調査の結果、埋納坑から焼失した寺院に祀られていたことが確実な塑像や三尊博仏などが出土しました。両者の位置的な関係から、埋納坑と出土品は川原寺との関連する蓋然性が高いと推測されました。

(3) 博仏自体についての研究では、考古学分野から石田茂作氏、美術史分野から久野健氏などが言及されていました。しかし、それまで大量に出土することがなかった三尊博仏が川原寺裏山遺跡から出土したことから注目され、その源流や院内の荘厳方法などが活発に議論されることになりました。その後、三重県名張市夏見廃寺や奈良県御所市二光寺廃寺などにおける大形多尊博仏や六尊連立博仏などの出土事例も加わり、北は宮城県から南は大分県まで、全国で 110 遺跡以上からその出土が確認されるようになり、博仏研究は新たな視点で調査研究を推進すべき段階を迎えていました。

(4) このような現状を鑑みた場合、わが国の博仏研究に大きな画期をもたらす、今日的な調査研究の出発点とできる川原寺裏山遺跡出土品の整理・分析と関連史資料の集成・公開、さらに川原寺の建立・消長に関する、多分野からの総合的な言及は、日本古代史上において推進が必要不可欠な調査研究課題と

判断しました。

2. 研究の目的

本研究は奈良県明日香村に所在する川原寺裏山遺跡から出土した三尊博仏を中心とした一括遺物の整理・分析作業を出発点に類例を網羅的に集成し、特に三尊博仏の源流や荘厳方法などを国内外の事例を視野に、学際的に解明することを主目的としました。

(1) 考古学的調査研究

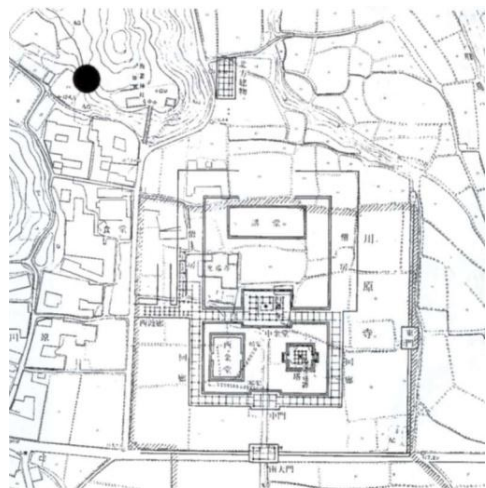
① 川原寺裏山遺跡から出土した一括資料の内容（種類や点数など）について、考古学的な観点からデータベースを作成・公開すること。② 同一遺跡の一括資料を同原型資料と呼称される博仏型に由来する個体差等に注目しつつ、考古学的な視点から范型や胎土、彩色、漆、金箔などの使用方法や、仏堂内での荘厳方法と密接な関連性があると推定できる最終仕上がりまで、具体的な製作工程などを検討すること。③ 博仏の個体差における図像文様の差異と法量の差異の二系統に注目し、博仏の原型や博仏型、使用された博仏型の素材や数量など、博仏生産体制の実態を解明すること。④ 類例の悉皆的調査を通じて、遺跡間における博仏個体差の有無や差異の系統などの視点から川原寺裏山遺跡出土品の特質を把握し、広範な博仏生産体制の背後関係を解明すること。④ 1974 年度の発掘当時、諸般の事情から必ずしも十分に確認されなかった埋納坑の詳細について、必要最小限の範囲で再発掘して正確な記録を作成するとともに、当時その存在が予測された隣接する複数の埋納坑についての確認作業を実施すること。⑤ 当該地点の周辺を広範囲に測量調査し、恒久的な遺跡保全（史跡指定）に向けての基礎資料を作成すること。

(2) 文献学的調査研究

① 『日本書紀』天武天皇朱鳥元年条に見える「御窟殿」「御窟院」の考察と川原寺裏山遺跡との関係や、その他の文献史料にみえる古代仏堂の内部構造と川原寺裏山遺跡出土品を対照すること。② 孝徳天皇～天武天皇の時代における飛鳥を中心とした仏教受容の様相と川原寺裏山遺跡の関係などを調査研究し、あわせて堂内における荘厳方法を復元する目的で、仏教（思想）史の視点も加味して、漢訳仏典などから関連史料を抽出すること。

(3) 美術史的調査研究

① 川原寺裏山遺跡から出土した方形三尊博仏は南法華寺、独尊博仏は紀寺から同范のものが出土していますが、この三尊博仏は、現存資料の中で橘寺とともに最古の製作・使用例と推定され、柔らかな表現は初発的な初唐様式に通じる趣が指摘できる一方、独尊博仏は変化に富んだ写実的な衣文処理からさらに進んだ様式を示しており、同時期の製作において新旧の様式が混在していることが推



【川原寺と川原寺裏山遺跡】

測できます。このような観点を視野に、直接的な類例をはじめ関連資料について対比的検討を行いつつ、初唐様式の受容と山田寺仏頭に至るまでの選択過程について、具体的様相の変遷過程を把握すること。②三尊博仏（形式）や塑像の遡源について、中国やインドの事例を視野にして、現地調査の成果を加味して実証的に考究すること。

(4) 保存科学的調査研究

①川原寺裏山遺跡から出土した金属製品は、仏像の金銅製台座片や荘厳具など仏教関連の金銅製品を中心に、銅銭・鉄釘などを含まれます。これらの大部分は断片的な資料であり、火災により二次的に火熱を受けていることに加え、発掘調査後 30 年以上経過していることから劣化が著しく、今後さらに崩壊の進む危険性が高いと推測できます。このような現状を勘案し、保存科学的な観点を重視した金属製品の整理作業を行い、これを基礎資料として全体像の復元や用途、類例などに関する調査研究を実施すること。②急激な劣化や崩壊を防ぐため、将来必要となる保存処理の前段階として、現状における素材や劣化の程度についてデータ整理を実施し、二次的に火熱を受けていることをも考慮した、最適な保存処理の方法を選択する基礎資料を作成すること。

(5) 考古学や文献史学、仏教史学、美術史学、保存科学、地理学の諸分野が協力して、出土遺物の調査研究を推進して得た成果を総合することを通じ、創建年代をはじめその実態が不明瞭な謎の大寺、飛鳥・川原寺の実相の一端を明らかにし、あわせて出土品の保存活用・公開を図ること。

3. 研究の方法

研究期間中には必要に応じて全体会議を開催し、各年度の研究基本計画について各研究班の調査研究内容の深化と共有化を図り、獲得された成果を統合し発展させる契機としました。

(1) 考古学班は担当者全員で川原寺裏山遺跡から出土した千数百点の三尊博仏をはじめとした各種遺物について、資料整理・基礎データ作成に関する基本方針を策定しました。この作業では先行的に当該資料の部分的な整理作業を実施した関係者の意見を反映し、齟齬がないように留意しました。①川原寺裏山遺跡の出土遺物は現在、関西大学考古学研究室、奈良文化財研究所（飛鳥資料館）、奈良国立博物館、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館、明日香村教育委員会（文化財展示室）などに分散して保管されていますが、これらについても種類や数量などに関する予備的な調査を実施しました。②2010 年度に実施した川原寺裏山遺跡の第二次発掘調査では、1974 年度の第一次発掘調査の担当者の意

見を参考に、当該地域で豊富な発掘経験を蓄積している研究分担者の見解を反映しながら、研究代表者と明日香村の担当者が具体的な調査計画を立案しました。なお、2006 年度に関西大学と明日香村とが締結した包括的な地域連携に関する協定（明日香協定）も、発掘調査を中心とした調査研究の円滑な推進を側面的に支援しました。

(2) 文献学班は川原寺を中心とした飛鳥地域の古代寺院に関する文献資料を網羅的に収集し、基礎データを整備しました。特に、『日本書紀』天武天皇朱鳥元年条に見える「御窟殿」「御窟院」の考察と川原寺裏山遺跡の関係について、調査研究を重点的に行いました。

(3) 美術史学班は、三尊博仏と塑像を中心に考古学班や画像処理班が作成した実測図や 3D 画像などの資料を活用し、形式・様式的な特徴の把握について整理・分析しました。

(3) 画像処理班は、従来の実測方法では凹凸があるため正確な図化が困難であった三尊博仏や塑像について、九州国立博物館が設備する 3 次元表示が可能な X 線 CT スキャナと非接触光学式 3 次元デジタイザを活用して、詳細な形態や内部構造に関する画像データを取得しました。また、これらの機器の特徴を勘案し、最適な画像処理・実測方法を模索しました。



(4) 保存科学班は、金属製品の接合検討を行い、実測図の作製や写真撮影などの基礎データ資料を作成し、素材や現状での保存状態（劣化の度合）なども記載して、デジタルデータ化を推進しました。また、将来的な保存処理への前段階として、劣化の度合や素材に関するデータ整理を実施し、適切な保存処理方法を選択する基礎資料を作成しました。

(5) 地理学班は、川原寺裏山遺跡の立地や特徴について、環境・自然地理学的な観点から、先行研究の集積をはじめとした飛鳥地域の基礎調査を実施しました。特に、第二次発掘調査では、専門的観点から助言を行いました。

以上の調査研究は、以下の概念図にある年度計画で推進しました。

| | 平成 21 年度 | | | 平成 22 年度 | | | 平成 23 年度 | | | 平成 24 年度 | | |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| | 6月 | 9月 | 12月 | 6月 | 9月 | 12月 | 6月 | 9月 | 12月 | 6月 | 9月 | 12月 |
| 考古学班 | 出土品整理 | 出土品整理 | 出土品整理 | 出土品整理 | 出土品整理 | 出土品整理 | 出土品整理 | 出土品整理 | 出土品整理 | 出土品整理 | 出土品整理 | 出土品整理 |
| 文献学班 | 史料調査 | 史料調査 | 史料調査 | 史料調査 | 史料調査 | 史料調査 | 史料調査 | 史料調査 | 史料調査 | 史料調査 | 史料調査 | 史料調査 |
| 美術史学班 | 遺物実見・検討 | 遺物実見・検討 | 遺物実見・検討 | 遺物実見・検討 | 遺物実見・検討 | 遺物実見・検討 | 遺物実見・検討 | 遺物実見・検討 | 遺物実見・検討 | 遺物実見・検討 | 遺物実見・検討 | 遺物実見・検討 |
| 画像処理班 | 画像処理 | 画像処理 | 画像処理 | 画像処理 | 画像処理 | 画像処理 | 画像処理 | 画像処理 | 画像処理 | 画像処理 | 画像処理 | 画像処理 |
| 保存科学班 | 遺物実見・保存検討 | 遺物実見・保存検討 | 遺物実見・保存検討 | 遺物実見・保存検討 | 遺物実見・保存検討 | 遺物実見・保存検討 | 遺物実見・保存検討 | 遺物実見・保存検討 | 遺物実見・保存検討 | 遺物実見・保存検討 | 遺物実見・保存検討 | 遺物実見・保存検討 |
| 地理学班 | 飛鳥の遺跡立地調査 | 飛鳥の遺跡立地調査 | 飛鳥の遺跡立地調査 | 飛鳥の遺跡立地調査 | 飛鳥の遺跡立地調査 | 飛鳥の遺跡立地調査 | 飛鳥の遺跡立地調査 | 飛鳥の遺跡立地調査 | 飛鳥の遺跡立地調査 | 飛鳥の遺跡立地調査 | 飛鳥の遺跡立地調査 | 飛鳥の遺跡立地調査 |
| | 全体会議 | 全体会議 | 全体会議 | 全体会議 | 全体会議 | 全体会議 | 全体会議 | 全体会議 | 全体会議 | 全体会議 | 全体会議 | 全体会議 |
| | 国際シンポジウム | 国際シンポジウム | 国際シンポジウム | 国際シンポジウム | 国際シンポジウム | 国際シンポジウム | 国際シンポジウム | 国際シンポジウム | 国際シンポジウム | 国際シンポジウム | 国際シンポジウム | 国際シンポジウム |
| | 報告書作成・公表 | 報告書作成・公表 | 報告書作成・公表 | 報告書作成・公表 | 報告書作成・公表 | 報告書作成・公表 | 報告書作成・公表 | 報告書作成・公表 | 報告書作成・公表 | 報告書作成・公表 | 報告書作成・公表 | 報告書作成・公表 |

【各班の年度別調査・研究内容の概念図】

4. 研究成果

調査研究は、1974年度に実施された川原寺裏山遺跡の第一次発掘調査で埋納坑から一括して出土した遺物群の正確な内容把握と正式報告書作成に至る資料整理、2010年度に実施した第二次発掘調査、獲得された研究成果の公開を中心に実施しました。

(1) 出土遺物の整理作業では、各地の博物館・資料館等に分散して保管される三尊埴仏や塑像の実態把握を出発点に、第一次発掘調査の担当者を含む関係者が会合・検討しました。検討会では第一次発掘調査の概要・成果についての状況把握や、出土遺物の資料整理に関する基本方針を策定しました。この基本方針に基づき、①考古学・美術史分野の担当者は、三尊埴仏と塑像の接合や台帳作成を推進しました。また、画像処理分野の担当者と三尊埴仏の画像データ作成を試行し、正確な実測図の作成方法を模索・試行しました。②考古学分野の担当者は国内の事例をデータ化するとともに、東アジアの類例について現地調査しました。③保存科学分野の担当者は、金属製品について最適な保存処理方法を策定する前提として、出土品の種別や材質などの台帳作成を推進しました。④文献学・仏教史学分野の担当者は、川原寺をはじめとした関連する古代寺院にかかる史資料を収集・整理しました。⑤一連の資料整理の過程で、当初に予期された以上の知見を獲得することができました。例えば、金属製品の詳細について検討を進めた結果、川原寺で密教儀礼が行われていた可能性を示唆する三鈷杵を確認したことや、X線CTスキャナ・3Dプリンタの活用から、焼損した塑像の内部構造を実体化することが可能になり、制作技法を実証的に復元することが可能になったことなど、次段階として解明すべき研究課題が析出される結果に繋がりました。

(2) 川原寺裏山遺跡第二次発掘調査では、第一次発掘調査にかかる調査記録・画像データなどの整理とともに、奈良文化財研究所や橿原考古学研究所、明日香村教育委員会により実施された川原寺の発掘調査の成果を整理しました。これらの準備作業を終えた後、明日香村教育委員会をはじめとした行政機関、地権者をはじめとした地域住民と事前協議を実施し、2011年2月～3月に現地調査（第二次発掘調査）を実施しました。発掘調査では第一発掘調査で確認された埋納坑周辺の詳細な地形測量を実施するとともに、埋納坑の形態や規模にかかる数値を計測しました。

(3) 一連の調査研究で獲得された成果を社会に速報するため、2012年12月15日、関西大学で国際シンポジウム（飛鳥・川原寺裏山遺跡と東アジア）を開催しました。シンポジウムでは研究代表者・分担者・協力者に加え、国

内および海外（韓国・米国）の研究者にも参画を求め、当該研究の成果について総合的な理解が促進されるように努めました。あわせて、研究発表の内容について資料集（A4判167頁）を刊行し、参加者や研究機関に配布しました。また、2013年度中に4カ年の調査研究の成果を集約した概要報告書（A4判231頁）を刊行・公開する予定です。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計31件）

(1) 藤井陽輔・米田文孝、珠金塚古墳北柳出土三角板鋸留短甲の保存修理と再検討、関西大学博物館紀要、査読無、第19号、2013、1-14

(2) 西本昌弘、古代都城と神・仏・天の祀り、都城制研究、査読有、7号、2013、65-75

(3) 西本昌弘、倭王讃と応神天皇、古代史の研究、査読無、18号、2013、1-22

(4) 米田文孝・日置智（2名中1番目）、円満寺山古墳（第1号墳）第2・3次調査の概要、海津市歴史民俗資料館報、査読無、平成23年度号、2012、3-5

(5) 米田文孝、高松塚古墳墳丘の景観変遷（上）（下）、阡陵、査読無、No.65・66、2012、2-3・8-9

(6) 西本昌弘、平安時代の除目書『綿書』の一伝本、関西大学文学論集、査読無、61巻4号、2012、1-22

(7) 西本昌弘、健王の今来谷墓と酒船石遺跡、続日本紀研究、査読有、396号、2012、1-15

(8) 原田正俊、中世前期における禅林の年中行事、年中行事・神事・仏事、竹林舎、査読無、2012、214-240

(9) 原田正俊、中世の和泉国における天台系寺院の展開、地域文化の歴史を往く、和泉書院、査読有、2012、52-74

(10) 原田正俊、五山禅林生活の変容と文雅への志向、ヒストリア、235号、査読有、2012、112-123

(11) 尼子奈美枝、但馬における後期古墳の階層性、菟原II-森岡秀人さん還暦記念論文集-、同刊行会、査読無、2012、461-472

(12) 尼子奈美枝、金銅装馬具と階層性、長越長火塚古墳群発掘調査報告書、査読無、一、2012

(13) 西本昌弘、平安京野寺（常住寺）の諸問題、仁明朝史の研究-承和転換期とその周辺、査読有、一、2011、107-138

(14) 西本昌弘、高市大寺（大官大寺）の所在地と藤原京朱雀大路、古代文化、査読有、63巻1号、2011、45-64

(15) 西本昌弘、齐明天皇陵の造営と修造-健王・間人皇女・大田皇女の合葬墓域として-、古代史の研究、査読無、17号、2011、1-25

- (16) 原田正俊, 室町時代の室礼・唐物と禅宗, 日本仏教総合研究, 査読有, 第9号, 2011, 13-31
- (17) 長谷洋一, 八丈島歴史民俗資料館蔵羅漢像について, 関西大学東西学術研究所紀要, 査読無, 第49輯, 2011, 1-10
- (18) 長谷洋一, 浅草寺雷門と黒田高山-寛政の再建をめぐる-, 関西大学文学論集, 査読無, 61巻1号, 2011, 1-22
- (19) 廣岡孝信, 軒平瓦紋様の創作と画師-古代日本と中国・朝鮮半島との比較-, 勝部明生先生喜寿記念論文集, 査読無, 一, 2011, 314-335
- (20) 尼子奈美枝, 金銅装馬具の供給に関する一視点, 勝部明生先生喜寿記念論文集, 査読無, 一, 2011, 243-255
- (21) 米田文孝, 森下真企ほか(7人中1番目), 伊敷索グスク測量調査報告I, 久米島自然文化センター紀要, 査読無, 10号, 2010, 1-20
- (22) 木庭元晴・米田文孝ほか(4人中2番目), 放射性炭素年代測定のための液体シンチレーション計測の改善II, 関西大学博物館紀要, 査読無, 第16号, 2010, 11-23
- (23) 米田文孝, インド サヘート(祇園精舎)・マヘート(舎衛城)遺跡の調査, 日本文化財科学学会第27回研究発表要旨集, 査読有, 第27巻, 2010, 22-23
- (24) 西本昌弘, 飛鳥にきた西域の吐火羅人, 関西大学東西学術研究所紀要, 査読無, 43輯, 2010, 1-23
- (25) 尼子奈美枝, 大和の金銅装馬具についての一考察, 坪井清足先生卒寿記念論文集, 査読無, 一, 2010, 872-880
- (26) 西本昌弘, 九条家本『神今食次第』にみえる「清涼御記」逸文, 禁裏・公家文庫研究, 査読有, 第3輯, 2009, 1-20
- (27) 西本昌弘, 後佐保山陵, 続日本紀研究, 査読有, 第382号, 2009, 1-17
- (28) 西本昌弘, 九条家本『神今食次第』所引の「内裏式」逸文について, 史学雑誌, 査読有, 第118編11号, 2009, 39-63
- (29) 原田正俊, 日本の禅宗と宋・元の仏教-生活規範と仏教法会-, 中国-社会と文化, 査読有, 122号, 2009, 16-24
- (30) 原田正俊, 日本仏教史のなかの五山禅宗, アジア遊学 日本と宋元の邂逅, 査読有, 第24号, 2009, 195-210
- (31) 尼子奈美枝, 金銅装馬具の保有, 元興寺文化財研究所 研究報告 2008, 査読無, 2008年号, 2009, 51-58

[学会発表] (計13件)

- (1) 西本昌弘, 文献史料から見た川原寺, 国際シンポジウム飛鳥・川原寺裏山遺跡と東アジア, 2012年12月15日, 関西大学(大阪府)
- (2) 長谷洋一, 古代日本の塑像-構造と作風の観点から-, 国際シンポジウム飛鳥・川原寺裏

山遺跡と東アジア, 2012年12月15日, 関西大学(大阪府)

(3) 廣岡孝信, 日本古代の埴仏について-奈良県を中心に-, 国際シンポジウム飛鳥・川原寺裏山遺跡と東アジア, 2012年12月15日, 関西大学(大阪府)

(4) 原田正俊, 足利義満の相国寺創建と仏事法会, 平安京・京都研究集会, 2012年11月4日, 京都機関紙会館(京都府)

(5) 原田正俊, 五山禅林の年中行事と室町殿, 国際高等研究所, 2012年8月30日, 国際高等研究所(京都府)

(6) 米田文孝・文珠省三・合田幸美, 大阪の公立博物館の現状, 平成24年度全国大学博物館学講座協議会全国大会, 2012年6月23日, 関西大学(大阪府)

(7) 原田正俊, Buddhist Monks and the Heavenly and Gods in the Muromachi Period, AFAS(Association for Asian Studies) (招待講演), 2012年3月5日, トロント(カナダ)

(8) 原田正俊, 五山禅宗寺院の文書管理と重書案, 日本古文書学会, 2011年9月25日, 國學院大学(東京都)

(9) 尼子奈美枝, 金銅装馬具と階層性, 古代学研究会, 2011年2月19日, アネックスパル法円坂(大阪府)

(10) 亀井宏行・米田文孝ほか(5名中4番目), 大阪府枚方市禁野車塚古墳の物理探査, 日本文化財科学学会(第27回大会), 2010年6月27日, 関西大学(大阪府)

(11) 米田文孝, 祇園精舎発掘プロジェクト(招待講演), 日本文化財科学学会(第27回大会), 2010年6月27日, 関西大学(大阪府)

(12) 廣岡孝信, 二光寺廃寺の発掘調査, 日本伝統瓦技術保存会第2回研修会, 2009年9月26日, 奈良県立橿原考古学研究所(奈良県)

(13) 原田正俊, Monks of the Five Mountains and the Unification of Japan: Excerpts from Seisyoosho Bunan, 国際研究集会 Pieces of Sengoku, 2009年4月25・26日, プリンストン大学(米国)

[図書] (計12件)

(1) 米田文孝(編)・西本昌弘・長谷洋一・廣岡孝信・市元壘・尼子奈美枝ほか, 関西大学考古学研究室, 飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究-出土品から見た川原寺の特質-, 2013, 231pp.

(2) 西本昌弘, 山川出版, 桓武天皇(日本史リブレット), 2013, 91pp.

(3) 米田文孝・今井真由美・鮫島えりな, 奈良県明日香村, 飛鳥寺と飛鳥大仏, 2013, 28pp.

(4) 相原嘉之・廣岡孝信ほか, 柳原出版, なるほど!「藤原京」100の謎, 2012, 315pp.

(5) 市元壘, 九州国立博物館, 中国出土埴仏調査集報(研究分担調査中間報) 2012, 24pp.

(6) 西本昌弘, 吉川弘文館, 日本古代の年中

行事書と新資料, 2012, 356pp.

(7)米田文孝(編)・西本昌弘・長谷洋一・廣岡孝信・市元壘・尼子奈美枝ほか, 国際シンポジウム実行委員会, 川原寺裏山遺跡と東アジア資料集, 2012, 167pp.

(8)米田文孝(編), 奈良県明日香村, 石舞台古墳-巨大古墳築造の謎-, 2012, 28pp.

(9)土橋理子・廣岡孝信ほか, 明新社, やまとの地宝-遺物が語る奈良の歴史-, 2011, 113pp

(10)原田正俊(編), 思文閣出版, 天龍寺文書の研究, 2011, 720pp.

(11)西本昌弘(編), 八木書店, 新撰年中行事, 2010, 256pp.

(12)長谷洋一, 島根県立石見美術館, 千年の祈り 石見の仏像, 2009, 126pp.

[その他]

ホームページ等: 当該研究の成果概要とその後の調査研究の進捗状況について, 2013年度中に開設予定の考古学研究室のHPに掲載します。

6. 研究組織

(1)研究代表者

米田 文孝 (YONEDA FUMITAKA)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 00298837

(2)研究分担者

西本 昌弘 (NISHIMOTO MASAHIRO)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 00192691

原田 正俊 (HARADA MASATOSHI)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 40278883

長谷 洋一 (HASE YOUICHI)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 60388410

市元 壘 (ICHIMOTO RUI)

独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部・研究員

研究者番号: 40416558

廣岡 孝信 (HIROOKA TAKANOBU)

奈良県立橿原考古学研究所・附属博物館・主任学芸員

研究者番号: 00260373

藤田(尼子) 奈美枝 (FUJITA [AMAKO])

NAMIE)

(財)元興寺文化財研究所・研究部・研究員

研究者番号: 20261216

(3)連携研究者

木庭 元晴 (KOBAYASHI MOTOHARU)

関西大学・文学部・教授

研究者番号: 40141949

(4)研究協力者

河上 邦彦 (KAWAKAMI KUNIHICO)

神戸山手大学・現代社会学部・教授

研究者番号: 80271584

(H21-H23: 研究分担者)